

JCI-TC-161A 鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度算定法に関する研究委員会 第 10 回議事録

(記録：松井)

1. 日 時：2017年12月15日（金）15:00～17:00

2. 場 所：JCI 第2会議室

3. 出席者：[以下、すべて敬称略、_____は欠席者]

加藤（主査）、秋山、岡本、河野、熊谷、新藤、津田、中村、萩尾、本多、松井、
松崎、渡邊、

4. 提出資料：

- No.10-0 鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度算定法に関する研究委員会第10回議事次第
- No.10-1 鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度算定法に関する研究委員会第9回議事録
- No.10-2 報告書目次案 (加藤)
- No.10-3 2章目次案 (熊谷)
- No.10-4 2章立体壁 (熊谷)
- No.10-5 有開口壁のFEM解析結果 (津田)
- No.10-6 鉄筋コンクリート造無開口耐震壁の曲げ強度算定法に関する研究 (津田)
- No.10-7 RC造両側柱付き有開口壁の3本柱モデルへの適用法の検討 (加藤)
- No.10-8 研究委員会報告会・シンポジウム等開催ガイドライン (事務局)

5. 議事内容：

① 前回議事録の確認【資料 No.10-1】

- ・議事録の確認がなされ、誤字の修正をもって承認された。
- ・報告会：2018年9月28日（金）早稲田大学国際会議場

② 報告書目次案および内容について【資料 No.10-2～10-7】

- ・1.1節では一貫計算ソフトで用いられている壁部材のモデル化手法などについて示していく予定である。
- ・1.1節、1.2節で規基準における無開口・有開口の壁部材の評価法が示されることから1.3節開口の影響の評価は削除する。1.4節を1.3節に繰り上げる。
- ・2章の目次は【資料 10-4】が最新のものである。（資料 10-3 は破棄）
- ・図表番号は3階層での表示を基本とする（例えば、1.1.1など）。ただし4階層も可。
- ・参考文献は指定の書式例のとおりとする（枝番号なしで担当の章あるいは節で完結）。
- ・3章袖壁付き柱では、RC規準、保耐規準などの規基準における設計法を示す予定である。せん断に関する設計法を記述する。（委員会名に曲げ強度とあるが捉われる必要はない）
- ・4章のとりまとめ役は松崎幹事をお願いします。土木における面部材構造の例については、節を設けて示してはどうか。
- ・5.5節削除
- ・6章無開口壁の設計式の提案を記述する予定である。【資料 10-6】
- ・7章有開口試験体の検証試験体とそのFEM解析【資料 10-5】について進捗状況が報告された。目次案を再考し、加藤主査に報告。

- ・ 8.1 節せん断強度に及ぼす開口の影響を FEM 解析により検討する。
せん断破壊型の開口壁の解析精度検証が必要ではないか。
規基準以外のせん断評価法ではストラット式が提案されているので紹介できればと考えている。
- ・ 8.2 節では有開口壁の 3 本柱モデルへの適用法などについて記述の予定である。【資料 10-7】
- ・ 9 章壁式橋脚への適用では、提案された評価法を土木構造で適用できるか検討を行う予定。
ただし、側柱がない面部材がほとんどであるので適用可能な構造が土木構造であるかによる。
とりまとめを中村幹事にお願ひする。目次案を再考し、加藤主査に報告。

③ 今後の予定【資料 No.10-8】

- ・ 目次案を加藤主査より送付。
- ・ 3 月 30 日の委員会では原稿案を持ち寄り検討。USB 等でファイルを持参。
- ・ 5 月中旬までに報告会の開催計画書および会告案を事務局へ提出
- ・ 9 月 28 日 報告会

6. 次回予定

日 時： 3/30 (金) 15:00-17:00

場 所： JCI 会議室

内容

- ・ 報告書原案の確認

以上